

和歌山大学協働教育センター クリエプロジェクト
＜2021年度ミッション成果報告書＞

プロジェクト名：新クリエ映像制作プロジェクト！

ミッション名：和歌山×SDGs

ミッションメンバー：経済学部1年 湯川 愛理 観光学部1年 中川 汰智 観光学部1年 中地 雄大
教育学部1年 太子 寛人 経済学部1年 清水 太陽 経済学部1年 岡島 美里
経済学部1年 大國 琴美 経済学部1年 岡 日菜乃 観光学部1年 三宅 聡太
経済学部1年 上田 一輝 観光学部1年 渡辺 里奈 観光学部1年 松井 丈
観光学部1年 有田 翔栄 観光学部1年 小木 岳斗

キーワード：和歌山 SDGs 映像制作 スキルアップ 融合

背景と目的

【背景】新クリエ映像制作プロジェクト！は今年度新たに発足した団体であり、そのメンバーの多くが映像制作未経験者であった。また、ミッションメンバーは全員1年生であったことから、和歌山大学ではどのようなことができるのか、和歌山大学が位置する和歌山県とはどのような場所であるのかに関する知識が不足していた。そこで、「和歌山で学ぶ」をテーマとしている和歌山大学のクリエでは、学部を超えた交流や教員との協働ができると知り、そのクリエの特性を最大限活用しながら、地域と深く関わり、能動的に学び、その学びをカタチにするスキルを身に着けようと考えた。そこで、社会的取り組みであるSDGsを、和歌山をフィールドにして学ぶこと、映像制作の基本的な知識や技能を身に着けることの2つの軸を目標に本ミッションを立ち上げた。

【目的】このミッションの目的は大きく分けて2つある。1つ目は『和歌山×SDGs』の学び、2つ目は映像制作のスキルアップである。和歌山とSDGsを融合させて学びを深め、その過程で次年度以降の活動につなげられるスキルを身に付けるという目的だ。

【到達目標】次に、今年度の到達目標について述べる。和歌山県内でSDGsに関連する取り組みを行っている人または団体をリサーチする。そして可能であれば現地で取材をし、その取り組みを映像に収める。その活動を通じて「和歌山で学ぶ」を実践する。また、映像制作の経験があるメンバーや指導教員の木川先生の指導、そして図書館の文献やインターネットを利用した自習によって、企画・構成、撮影機材に関する知識、撮影・編集技法のようなスキルを基礎的なものから発展的なものまでを全員が習得する。そして大学生の作品として恥じないクオリティの作品を制作できるようになる。加えて、創作活動そのものの楽しさを知る。

このような活動を通じて、メンバー全員がSDGsと映像制作の両方の基礎知識を習得し、次年度以降の活動のためのスタートアップとなることを目指した。

1. 活動内容

本ミッションは「SDGs」の学びと映像制作の知識・技能の習得という大きな2つの目標を定めており、活動内容も大きく2つの軸に分けられる。まず「SDGs」の学びでは、ミッションメンバー全員が1年生であったことから、親睦を深め、今後の活動を円滑に行うために週1回のオンライン会議を行った。そして



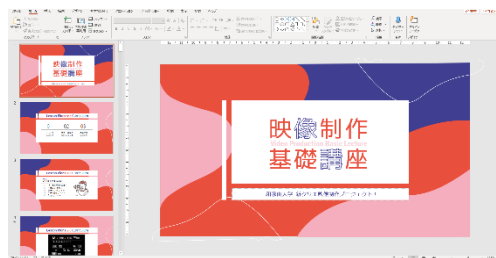
SDGs 講座の様子

秋ごろにメンバーによる「SDGs」講習会を対面にて行った。この講習会は、SDGsが掲げる理念や一つ一つの目標の解説、また和歌山県内での取り組みについても触れた内容となっており、映像の制作を見据えて改めてSDGsを知り、考えるきっかけとなった。講習会で基礎事項を再確認した後、映像の企画段階に突入した。まず和歌山県を4つにエリア分けし、班を構成し、リサーチを行った。当初の計画では、それぞれの班でSDGsに取り組んでいる和歌山県内の事業者等をリサーチし、現地に赴いて取材・撮影を行う予定であった。しかし、度々の課外活動の制限により、すべての班の現地での活動が叶わなかったため、動画の完成には至っていない。その中でも何らかの方法で活動ができないかと考え、アドベンチャーワールドさま、那智勝浦観光機構さまにオンラインでのヒアリングを行った。今後、対面活動の制限が緩和された際には、叶わなかった現地活動を改めて実施し、映像の制作を完遂させる予定である。



那智勝浦観光機構さま
ヒアリングの様子

もう一つの軸である映像制作の知識・技能の習得では、全員が映像制作を一度経験してみるために、自己紹介動画を制作した。対面活動が禁止されている中、ミッションメンバーのことを知り、親睦を深めるきっかけとなった。次に、映像制作の経験があるメンバーによる映像制作基礎講座を開いた。当講座も対面活動禁止中の開



オンライン映像制作
講座の様子

催であったため、オンラインでの実施となったが、カメラの仕組みやカメラワークの種類など、映像制作の基本的な内容から実践的な内容までを身に着けることができた。口頭での説明だけでなく、図や実際の映像を用いた資料を制作し、より理解が深められるような工夫を施した。そして秋ごろにはアマチュア映像コンテストである「第33回丹波篠山映画大賞」に応募するためのドキュメンタリー映像を有志メンバーにより制作した。製作期間が偶然にも和歌山市北部の大規模断水と被ったため、「LiNK」と題し、人と人とのつながりを描いた作品となった。選考を通過することはなかったが、当クリエとして制作した最初の作品となった。

撮影の様子



ワンカット
完成映像の



これらの2つの軸を主とした活動を1年間行ってきた。幾度となく対面活動に制限がかかったことにより、思うように活動ができないと感じることも多かったが、オンラインツールを活用しながらできる限りの活動ができたのではないかと考える。

2. 活動の成果や学んだこと

まず、本ミッションの1年間の活動を通して、「和歌山で学ぶ」を实践できた。具体的には、和歌山大学ならではのクリエという制度で仲間と出会い、互いを高め合い、そして和歌山県について知ることができた。私たちは映像作品を作ることを目的とする団体であるが、この活動を通して、映像作り

のためだけではなく私たちの学びにもつながり、創作活動そのものの楽しさを知りながら、大学生としての知見を広げられたと感じている。

また、団体外との関わり、繋がりをつくることができた。度々の活動制限が課された中ではあったものの、オンラインツールを活用し、各班に分かれた調査の過程で、アドベンチャーワールドさま、那智勝浦観光機構さまをはじめ、伊藤農園さま等、和歌山県内各地の事業者との関わりを持つことができた。今後は、この関わりを通して学んだものを、私たちが制作する映像を通して和歌山大学生に広め、和歌山の魅力を取り上げることで、実際に現地に赴くといった活動や、商品の購買意欲増加につなげたいと考えている。

そして、もう一つの成果として映像制作の基礎を一から学べたことが挙げられる。映像制作未経験者が大半であったため、基礎から学び直す必要があった。しかし、映像制作基礎講座等を通してメンバー全員が映像制作についての基本的な知識を学ぶ機会を得たことにより、映像制作の基本的な内容から実践的な内容までを身に着けることができ、次年度以降の活動につなげられたと考える。

最後に、SDGs についての認識を改めることができた。SDGs とは 2001 年に策定されたミレニアム開発目標（通称 MDGs）の後継として、2015 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことである。SDGs に関する取り組みの拡大とともに、SDGs について触れる機会は増えたものの、実際にどのような活動が行われているのか、SDGs が広がった背景については知らなかった。しかし、実際に和歌山県内で行われている取り組みを調査しているうちに、SDGs が目指すべき場所及びSDGs がもつ背景についても学ぶことができた。

3. 今後の展開

今年度は対面活動が禁止されていた期間が大半を占めていたため、実際に大学外で撮影をすることができず、またメンバー間でのコミュニケーションが円滑ではなかった。よって、活動が個人単位でおさまってしまい、チームとしての力が欠如していた。したがって、次年度以降の活動ではチームの力を意識し、明確な役割分担の下で活動を進めていきたい。仮に今後も課外活動に制限がかかることがあったとしても、今年度の反省点を踏まえて、オンラインツールを更に活用するなどし、メンバー間のより円滑なコミュニケーションを図りたい。また、今年度クリエとして制作した映像は前述の丹波篠山映画大賞に応募したドキュメンタリー映像の 1 本であるため、次年度はクリエとしての作品を増やしたい。ドキュメンタリー映像のみならずミュージックビデオやドラマなど、更に映像の幅を広げられたらなお良いと考えている。また、映像の制作に加え、基本的なデザインの方法や著作権の取り扱い方など、クリエイティブに関する様々な知識を習得したい。

そして、和歌山×SDGs という作品を完成させることを目標に活動していく。和歌山×SDGs の完成像は、SDGs を切り口に和歌山の魅力を再発見し、ストーリー仕立てかつ私たちの声として届けられるような映像である。また、和歌山大学生をターゲットに、和歌山県出身の学生はもちろん、和歌山県外出身の学生にも和歌山県を深く知ってもらえるような映像を目指す。加えて、今年度の学びを活かし、私たち一人一人が、ただ事実を伝える“伝達者”ではなく、“表現者”としても成長できるよ

うな活動をしていく。

今年度の活動は、団体の立ち上げ1年目であったことや度重なる活動制限により、思うように活動できないと感じることが多かったが、次年度は始動から2年目となるので、よりアクティブに活動したい。

4. まとめ

本ミッションは、私たちの立ち上げ1年目のプロジェクトである。ミッションの構想時に大切にしていたことは、ただ単に映像を制作することを着地点とするのではなく、あくまで映像制作を「手段」として捉え、SDGsを和歌山をフィールドに私たちが改めて学び、そして私たちの声として幅広く発信することを最終目標とすることである。地域の方々と関わ



りながら、その一人一人の想い、行動を映像として目に見える形に残して、未来の和歌山につなぐ。したがって本ミッションは地域のこと、社会のことを考えられるだけでなく、映像という媒体が担う役割を理解することもできるのである。人々の生活の営みや生きた証を鮮明に記録し未来へとつなぐ、そんな映像が持つ力を肌で感じられたことは本ミッションの大切な意義であったと考える。一昔前よりも映像制作のハードルが著しく下がった現代において、映像という媒体の意義や役割を改めて理解することは、私たちの将来を想像しても価値のあることではないだろうか。

また今回題材として取り扱ったSDGsだが、ここ数年でその取り組みはやっと私たちの身近なところにまで及ぶようになった。そのことで日々の生活の中で未来の地球のことを意識することも多くなった。しかしSDGsの本質が正しく理解されておらず、全ての目標の本質的な達成には程遠い状況にあることも事実である。達成期限である2030年までの間に私たちができること、すべきこととは何なのかを今後も継続して考えていきたい。ミッションの活動は1年で終わってしまうが、この取り組みをきっかけに永遠の課題として今後も真摯に向き合っていきたいと考える。

次年度は新入生も迎え、メンバー全員でクリエイティブの楽しさを共有しながらお互いに高みを目指していきたい。私たちは本ミッションの活動を通じて、そのための大きな第一歩を踏み出したのである。